




台ヶ峰 1502.4m (木曾 阿寺山
地) (積雪期ピークハント/縦走 / 中央
アルプス)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年03月03日(日帰り)

メンバー :

gekiyabu

天候 :

曇り

地図 :



WEB SERVICES BY YAHOO! JAPAN

標高グラフ :

コースタイム :

7:19 車道--7:24 林道終点(水道施設)--7:29 廃道に出る--7:52 1210m鞍部--8:25
1362m峰--8:33 1350m鞍部--9:33 1500m峰--9:37 台ヶ峰(休憩) 10:14--11:14
1300m付近で眼鏡探索 12:14--12:29 1210m鞍部--12:47 林道終点(水道施設)--
12:52 車道

コース状況/その他周辺情報 :

- ・ 登山道なし
- ・ 登山ポストなし
- ・ 西尾根上には目印多数あり

- ・藪はあるが笹が薄く無雪期でもOK
- ・山頂は樹林で展望なし

 写真 :



林道入口(地形図破線起点)



すぐに雪におおわれる



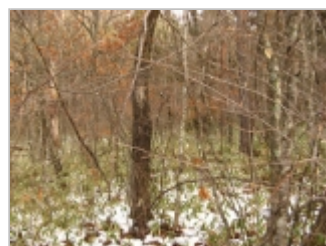
林道終点の水道施設



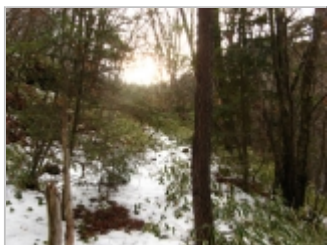
林道終点の先に踏跡なし



道路西側建物の小さな沢が破線の続きだった(帰りに判明)



沢沿いの斜面を適当に登る



廃道化した地形図破線に乗る



笹は薄く道の形は明瞭



1210m鞍部



東に進んで尾根に乗る



尾根上は目印多数あり



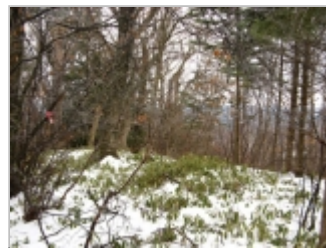
ここは自然林



ここは植林



急な登り



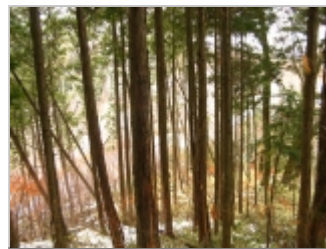
1350m肩



境界標識



1362m峰でシカ避け柵が
登場



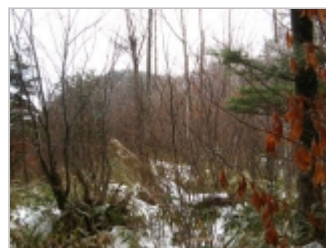
1350m鞍部に向かう



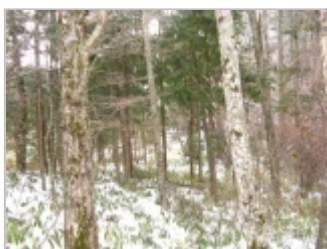
1350m鞍部。林道が乗り
越えている



林道付近から見た木曾御嶽



林道から登りにかかる。灌
木が濃い



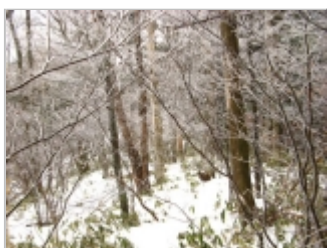
雪が増えてスノーシュー装
着



樹林の間隙から見た乗鞍岳



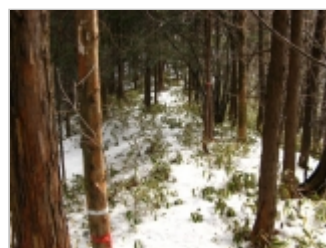
灌木藪区間を抜ける



北斜面側は霧氷が付いてい
る



柵が続く



この付近のみ目印がやたら
濃い。作業道でもあるの
か？



同じような光景が続く



1500m峰は近い



1500m峰



台ヶ峰山頂



掘り出した三角点

感想／記録 : (by gekiyabu)

概要

才児集落より上松町/木曾町境界尾根を往復。地形図で集落から1210m鞍部にある破線は廃道化。周囲と同じく薄い笹。町界尾根は樹林+薄い笹で無雪期でも充分歩ける状況で目印多数あり。今回は締まりのない新雪があったがこの笹のレベルだと雪が無い方が楽。残雪は山頂で30cm程度、他は10cm程度。1362m峰で直進しないよう注意。ここには鹿避け柵あり。山頂は植林で展望なし。山頂から東に延びる尾根にも目印があったので、そちらからも登る人がいるらしい。北側の尾根には目印は見当たらなかった。

阿寺山地の北東端に位置する山。阿寺山に登る前にこの付近の植生を把握しようと登ることにした。台ヶ峰はそこそこ標高があるが山深くはなく、西側の才児集落から山頂を目指すのが距離的標高差的にお得。ただし、この時期に2WD車で集落まで入れるかは不明で坂が凍結していたらNG。その場合は北東側の和合集落から登ろうと考えた。実際には登山当日は気温が高く、道路周囲は積雪で白かったが道路の凍結はなかった。

地形図の破線だが、それらしき場所に車道があり、駐車場が無いのでその入口付近の路側に駐車して出発。雪に覆われた車道を進むと右手に酪農用建物群らしきものを通過、終点は水道施設だった。その先に作業道や山道があるかと思っただけで終わっている。

この先は笹や灌木の緩斜面を谷に沿って適当に登る。地形図の破線は期待していなかったが、斜面を上がっていくと明らかな道の形跡に合流。周囲と同じく低く薄い笹に覆われているが見間違ふことのない明瞭な道形だ。地形図通りに道は進み、1224.4m三角点峰東がああ1210m鞍部に到着。廃道化しているが切り開きになっていた。ここで

東に向きを変え町界尾根に乗る。

自然林と植林、それに低い笹が生えた斜面を登ると結構な数の目印がある。ネットでは登山記録は見当たらなかったが、意外にも登る人はそこそこいるらしい。この付近は緩やかで帰りのことを考えると目印を残す必要があったが、自分で付ける必要はなかった。新雪があるので自分の足跡は残るが、薄いながらこれだけ笹があると簡単には足跡が判別できない。

標高1270~1350mは急な登りが続き、新雪の下の凍った地面で滑りやすい。下りはアイゼンがあった方がいいかも。この斜面はなぜか笹が薄く、傾斜がある場所には笹が生えにくいのか。尾根がバラけて下りは要注意。1350m肩で傾斜が緩み1362m峰で鹿避け柵が登場、ここで進路は右に直角に曲がるのだが地形図を見ていなかったので直進してしまっただ。正しい尾根は柵沿いであった。お隣の1360m峰にかけては緩やかな尾根で、植林と薄い笹藪、それに笹を隠しきれない程度の少ない新雪が続いた。

1360m峰の下りにかかると南斜面で新雪が消えて低い笹の中を下り、1350m鞍部に出ると地形図に無い林道が乗り越えていた。もしかしたら和合集落と才児集落を結んでいるのかもしれない。もしゲートが無ければここから登るのが台ヶ峰最短ルートだろう。

林道から尾根に取り付くところが今回のルート中最悪で、密生した灌木が蔓延り、締まりの無い重い新雪が深くズボズボ踏み抜きながら木の隙間を上がっていく。あまりに雪の状態が悪いので担いできたスノーシューを装着、かなりマシになったが新雪なのでスノーシューでも沈む。まったく春の雪らしかなぬ状態だ。新雪だからしょうがないけど。どこまで行っても植生、雪の状況に大きな変化はなかった。稜線は左に回り込むように屈曲し、樹林の隙間から1460m峰、1500m峰と並んで見えた。

台ヶ峰山頂部は2つのピークで構成されるが、西側の1500m峰に到着。山頂北端が一番高く盛り上がっているが真の山頂ではないのでそこは踏まずに東に向きを変える。自然林で明るい場所だ。山頂との鞍部はほとんど高度差は無く水平移動と言ってもよかった。

そして最高点に到着。今までと同じ植生で樹林で展望皆無、積雪は3,40cmあるので笹の正確な様子は分からないが、たぶんそれほど濃くないと思う。山頂標識はなく三角点は雪の下、でも意外に明瞭なピークでありピッケルを雪に刺して三角点の硬い手ごたえを探すと意外に簡単に発見。無事掘りだしてその姿を拝むことができた。結局、ここまで延々と目印が続き、思いの外物好きが多いようだ。

帰りも同一コース。1350m肩からの急な尾根を下っているときに、倒れかけた細い

木に眼鏡をひっかけて飛ばされてしまい、1時間ほど地面を這いずりまわって探したが見つからず。もっと雪が多ければ発見できただろうが、黒い地面が出ている部分が多くダメだった。あ～あ、1万円以上の損害だ(10年以上使ったけど)。なお、車に戻れば予備の眼鏡があるので生活に支障は無い。

標高が落ちると徐々に雪が解け始め、林道終点の水道施設に出ると、登りでは真っ白だった道路が顔を出していた。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>